こんな風につかってます
私の電子情報活用事例 vol.3

日々「進化」する経済学の日々「進化」する事典

—The New Palgrave Dictionary of Economics（オンライン版）の利用—

経済学部准教授
久保　真

私が専門とする経済学史とは、経済学の歴史的発展を跡づける学問分野です。遙か古のギリシアや商の経済観念から筆を起こし、世界金融危機以降、潮目が変わったと言われる経済学の状況までを、一貫した視点で論じ尽くすことが究極の理想です。私などには端から難しい理想なのですが、一層難しくさせているのは、20 世紀後半から経済学の特定分野毎に専門ジャーナルが次々と創刊され、それこそ日々山のように論文が発表されるようになっていることです。インターネット上に発表される数多の論説も、その状況に拍車を掛けていると言ってよいでしょう。結果として、ある個別分野で現在何がどこまで明らかにされ、どのような点において論争が生じているのか、当該分野の専門家でもない限りキャッチアップすることは至難の業となっています。現代の経済学のあり方を相対化することが経済学史という学問の使命であるのに、その「現代の経済学」が奈辺にあるのかすら分かりにくい状況にあるというわけです。

そのような困難な状況のなかで、有効なリファレンスとして私が頼りにしているのが、この度導入された The New Palgrave Dictionary of Economics のオンライン版です。元になっているのは、1987 年にハードカバー（全 4 巻）で出版された同名の事典を、2008 年に大幅に改訂して出版された第 2 版（全 8 巻）です。初版は少なからず異端派経済学の色濃いもので事典としては不適切だと批判されもしたのですが、第 2 版ではずっとバランスのよいものとなったと評価されています。さらにオンライン版となり、年 4 回という頻度で新たなエントリーを加えていることが、事典としての有用性を高めています。例えば、今確認のために検索してみたところ、2013 年には「LIBOR」「Google」「Law and Economics of Copyright and Trademarks on the Internet」など 21 エントリーが加えられており、まさにオンライン版ならではの速報性を実現しています。

その意味で、経済学を専門とする人が自らの個別専門領域以外のことについて調べてみたいときはもちろん、経済学以外を専門とする人が経済学の知見について調べるときにも、重宝するのではないかと思います。

The New Palgrave Dictionary of Economics（オンライン版）とは

本オンライン版は、2008 年に約 20 年ぶりに改訂刊行された経済学の最重要レファレンス『*The New Palgrave Dictionary of Economics*』（初版 1987 年刊行）の第 2 版電子版です。

初版と第 2 版の全文を収録し、さらに年 4 回の更新によって項目の追加、収録情報のアップデートが行われます。

オンライン版は、全ページを検索可能なクイック検索と、項目名、寄稿者名、抄録などを検索対象にしたり、指定トピックスを選択することが可能な詳細検索があり、トピックスは JEL(Journal of Economic Literature) の分類に準拠しています。

また、論文ごとの相互レファレンスや関連項目等へのリンクが用意されるなど、オンラインならではの便利な機能もご活用ください。